

2020年度 第3回 名大本番レベル模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

一

■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 明らかな誤字、語句・接続語・助詞等の誤用はそのつどマイナス1点。
- ③ 正当の要素を含んでいても説明の方向性が全くズレしていると判断される答案は0点としてよい。

問一 各2点 解答通り

a ムサボ b 推奨 c バンゼン d ホンネ e 探偵

f キタ g シコウ(セコウも可) h 報酬 i 我慢 j 容赦

問二(一) 6点 解答通り

生産性の向上という経済原理

問二(2)

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1.2点

■模範解答例。

A 作業員の都合に合った生産工程を設定し、生産高に比例して上昇する高賃金で労働者の士気を高め、労働者
B
C
D

E が心身の万全な状態で働けるように 一日八時間労働と余暇を承認した。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十以内 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「作業員の都合に合った生産工程を設定し」…3点

- ・「生産工程」という語がなくほぼ同意の場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「生産高に比例して上昇する高賃金」…2点

- ・「生産高」と「賃金」がリンクしていることが読み取れば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C 「労働者の士気を高め」…2点

- ・ 「士気」は「労働意欲」などてけも可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D 「労働者が心身の万全な状態で働けるように」…2点

- ・ 労働者の健康に考慮するというニュアンスが読み取れば可。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「一日八時間労働と余暇を承認した」…3点

- ・ 「一日八時間労働」に関しては、労働時間の適正化というニュアンスが読み取れば可。この内容と「余暇の承認」とのいずれかを欠く場合は2点。
- ・ 説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F 特に定まった文末表現はない。「フォーダイズム」リ三つの特徴を説明する答案形式と認められれば可。不適切と判断される場合は1点減点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素G参照

基準 配点16点

■模範解答例。

A B

資本家にとっては、労働者が禁酒すれば、帰宅後も休暇中も心身の健康を保って、労働効率もよくなり生産

性が向上し、労働者にとっては、酒におぼれることなく労働すれば、それに見合う高賃金が期待できるとい

F

う意味。

意味。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百以内 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「資本家にとっては」…1点

■要素B「労働者が禁酒すれば、帰宅後も休暇中も心身の健康を保って」…3点

- ・労働者の心身の健康が保てるというニュアンスが読み取れば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「労働効率もよくなり生産性が向上し」…4点

- ・「労働効率がよくなり」に2点、「生産性が向上し」に2点が目安。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素D「労働者にとっては」…1点

■要素E「酒におぼれることなく労働すれば」…3点

- ・「おぼれる」を単に「飲む・摂取する」などに行っている場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「それに見合う高賃金が期待できる」…4点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素G 文末は「…意味」、あるいは「…こと」という形が原則。但し、設問の求める「意味」を説明する答案形式になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

問四 各4点 解答通り

- (1) ウ
- (2) カ

■形式上の不備

- ・文末表現は要素H参照

基準 配点18点

■模範解答例。

A B C D

③は、社会的権利が認知されていない労働者の体力的限界を無視し彼らをこき使うやり方であり、④は、レ

E F G
ジャー産業が余暇を持って余す労働者の欲望を作り出し、それを満たすための労働へと彼らを駆り立て、高賃金を与えて購買意欲を刺激するというやり方である。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百二十以内 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「③は」…1点

■要素B「社会的権利が認知されていない労働者」…3点

- ・「社会的」はなくても可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「体力的限界を無視し彼らをこき使うやり方」…3点

- ・「体力的限界を無視し」を欠く場合は2点。
- ・「こき使う」は「過剰に働かせる」などでももちろん可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「④は」…1点

■要素E「レジャー産業が余暇を持って余す労働者の欲望を作り出し」…4点

- ・「余暇を持って余す」を欠く場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素F「それ(II欲望)を満たすための労働へと彼らを駆り立て」…3点

- ・「欲望を満たそうとして労働者が仕事に精を出し」といった説明でも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G「高賃金を与えて購買意欲を刺激するというやり方」…3点

- ・「購買意欲を刺激する」はほぼ同じニュアンスと判断できれば広く許容してよい。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素H ③と④の内容の違いを説明する答案形式になっていると判断できれば許容してよい。不適切と判断される場合は1点減点。

問一 ① 傍線部を、わかりやすく現代語訳せよ。【8点】

※現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

〔該当傍線部〕

(A1) B2声だにC1聞かばD1我が(E1) F2恋ひんやは

〔模範解答〕

A1あなたのB2声だけでもC1聞けたなら、D1私がE1こんなにも(A)あなたをF2恋しがるはるか、いいや、恋しがらずにすむはずだ

〔ポイント〕

A【1点】(補い) ↓ あなたの、あなたを

※歌のどこかに、恋しく思う対象として「あなた・あの人・恋しい人」等が書かれていればよい。

B【2点】声だに ↓ 声だけでも

※「声さえ・せて声だけでも・せて声でも」でもよい。

C【1点】聞かば ↓ 聞けたなら、

※「聞く・聞ける」の仮定条件になっていればよい。

D【1点】我が ↓ 私が

※Fが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「私」がFの「恋ひ」の主体と分かれれば「私は・私の」等でもよい。

E【1点】(補い) ↓ こんなにも

※Fが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「これほど」等でもよい。

F【2点】恋ひんやは ↓ 恋しがるはるか、いいや、恋しがらずにすむはずだ

※「恋しがるだろうか・恋しく思うだろうか・恋しがるか・恋しく思うか」等があれば【1点】。

※右の表現がある上で、反語であることがわかる表現になっていれば【2点】。

例 ◎ 恋しがるはるか、いいや「これは反語表現とする」

◎ 恋しがるだろうか、(いいや)恋しがりはない

× 恋しがるだろうか、(いや)ない「反語的だが正しくない」

問一 ② 傍線部を、わかりやすく現代語訳せよ。ただし、「かひやが下」はそのままよい。【8点】

※ 現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

【該当傍線部】 A2この「かひやが下」の歌、またBーもとよりCー様々にDー人E3申す事なり。

【模範解答】 A2この「かひやが下」の歌についてもまた、Bー言うまでもなくDー人々はCーいろいろとE

3論じております。

【ポイント】

A【2点】この「かひやが下」の歌、また ↓ この「かひやが下」の歌についてもまた、

※「かひやが下」がない場合は×。

※「について」は「に関して」でもよい。これがない「この「かひやが下」の歌は」は【1点】。

「歌」の直後に何も無い「この「かひやが下」の歌、」は×。

※「この」の歌「がない場合は、一つないごとにマイナス」。

※「かひやが下」の歌についても「のように」「も」があれば、「また」はなくてもよい。

「も」「また」もない場合はマイナスー。

B【1点】もとより ↓ 言うまでもなく

※「もちろん・当然」でもよく、「以前から・もともと・元来・すでに」等でもよしとする。

C【1点】様々に ↓ いろいろと

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「様々に」のままでもよい。

D【1点】人 ↓ 人々は

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「人は・他の人は」等でもよい。

E【3点】申す事なり ↓ 論じております。

※「論じます・論ずるのです」等でもよい。

※丁寧表現がない「論じている・論ずる・論ずるのだ」等は【2点】。

※「論ずる」がない「申す(申している)ことである」は【1点】。丁寧表現がない「言う(言っている)こと

である」は×。

問一 ③ 傍線部を、わかりやすく現代語訳せよ。【8点】

※ 現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

「該当傍線部」 A―鹿・猪など申すもののB―まうで来て、C2踏み損じて、D―喰ひなどするをE2寄せじ料にF―守らするなり。

「模範解答」 A―鹿や猪などと申しますものがB―やって来まして、C2田を踏み荒らして、D―作物を喰ひなどするのをE2近づけまいとするためにF―守らせるのである。

「ポイント」

A【一点】鹿・猪など申すものの ↓ 鹿や猪などと申しますものが

※「申しますものが」は「言いますものが・申すものが」でもよい。

丁寧表現がない「言うものが」や、謙譲語になっている「申し上げるものが」は×。

B【一点】まうで来て、 ↓ やって来まして、

※「参りまして・やつて参りまして・やつて来て」でもよい。「参上して・参上してきて」は×。

C【2点】踏み損じて、 ↓ 田を踏み荒らして、

※「踏み荒らし」は「踏んでだめにし」等でもよい。

※「田を」は「田畑を・畑を・稲を・作物を・若葉を」等でもよい。この補いがない場合は【一点】。

D【一点】喰ひなどするを ↓ 作物を喰ひなどするのを

※「作物を」は「稲を・若葉を」等でもよい。この補い（「喰う」の対象）がない場合は×。

ただし、Cで「作物を・稲を・若葉を」の補いをしている場合は、Dでの補いは「それを」でもよく、なくてもよい。

E【2点】寄せじ料に ↓ 近づけまいとするために

※「近づける・寄り付かせる」+打消意志「〜まい」+「ために・ように・目的で」の全てがあって【2点】。

※「近づける・寄り付かせる」は「近づく・近寄る・寄り付く」では×。

※打消意志「〜まい」は、打消「〜ない」では×。

※「近づける・寄り付かせる」、打消意志、「ために・ように・目的で」が一つないごとにマイナス。

F【一点】守らするなり。 ↓ 守らせるのである。

※「守らせた」等、断定（〜だ・〜である）の意がない場合は×。

問一 ④ 傍線部を、わかりやすく現代語訳せよ。【8点】

※現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

「該当傍線部」A2人の髪なにかを取り入れて、B2爐くまらせて煙を絶やさねば、C2鹿・猪なども人気を嗅ぎてD2もうで来さなれば、

「模範解答」 A2人の髪か何かをくべて、B2くすぶらせて煙を絶やさないと、C2鹿・猪なども人の気配を嗅ぎつけてD2やって来ないと言うので、

「ポイント」

A【2点】人の髪なにかを取り入れて、 ↓ 人の髪か何かをくべて、

※「髪か何か」は「髪など」でもよい。これに相当する表現がない場合はマイナス。

※「くべて」は「燃やして・焚いて・焚きつけて・火に入れて」、または「取って入れて」でもよい。

「取り入れて」のままになっている場合は、マイナス。

B【2点】爐くまらせて煙を絶やさねば、 ↓ くすぶらせて煙を絶やさないと、

※「くすぶらせて」（注がある）は、「煙を出して・煙が出るように燃やして」等でもよい。

「煙」の意がない「燃やして」等はマイナス。

※「絶やさないと」は「絶やさないようにすると」でもよい。

「絶やさないので・絶やさなから・絶やさなかつたところ・絶やさなければ」等はマイナス。

C【2点】鹿・猪なども人気を嗅ぎて ↓ 鹿・猪なども人の気配を嗅ぎつけて

※「人の気配」は「人の」がない場合はマイナス。また「人気・ひとけ」でもよい。「ひとげ」はマイナス。

「嗅ぎつけて」は、「嗅ぎ分けて・感じて・感じとって」でもよい。「嗅いで」のままはマイナス。

D【2点】もうで来さなれば、 ↓ やって来ないと言うので、

※「やって来ない・来ない」+伝聞・推定「〜と言う・〜そうだ・〜ようだ」+原因理由「ので・から・ため」が

全てあって【2点】。

※「やって来ない・来ない」がない場合は×。

※伝聞・推定、原因理由がない場合は、一つないごとにマイナス。

問一 ⑤ 傍線部を、わかりやすく現代語訳せよ。ただし、「児」は「女性」の意である。【8点】

※現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

〔該当傍線部〕

A 3 忍びつつあり B 2 と告げん C 3 児もがも

〔模範解答〕

A 3 人知れず私を恋しく思っている B 2 と言って来るような C 3 女性がいてほしいものだなあ

〔ポイント〕

A【3点】忍びつつあり ↓ 人知れず私を恋しく思っている

※「人知れず・人目を避けて」の意があれば【1点】。

※「恋しく思っている」の意があれば【2点】。

※「私を」ま有無は不問。

B【2点】と告げん

↓ と言って来るような

※「言って来る」は「告げる・告げてくる」等でもよい。

※「ような」(婉曲)は「〜ようにする」(意志)でもよい。これに相当する表現がない場合はマイナス。

C【3点】児もがも

↓ 女性がいてほしいものだなあ

※「女性」は同意ととれる表現であればよい(「児」は「女性」の意であると設問文にある)。

※「〜がいてほしい」は「〜あってほしい」でもよい。

※「なあ」は「ことよ・よ」等でもよい。これに相当する表現がない場合はマイナス。

問二 二重傍線部Aについて、何を何になぞらえているのか、わかりやすく説明せよ。

【10点】

〔該当傍線部〕 よそへたるなり

〔模範解答〕 A2なかなか逢うことができないB3人を恋しく思う気持ちを、C3人里を離れた山里の山田の庵を守らされている者がD2自分の家を恋しく思っている気持ちになぞらえている。

〔ポイント〕

A【2点】なかなか逢うことができない

※Bが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※Bの「人・相手」の修飾として「逢(会)えない」の意があればよい。

B【3点】人を恋しく思う気持ちを、

※解答全体から「人を恋しく思う気持ちを」の意がとればよい。

※「人」は「相手」でもよい。「恋しく思う」は「逢(会)いたい」でもよい。

C【3点】人里を離れた山里の山田の庵を守らされている者が

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「人里離れた所」+「山中(山里・山田)」+「庵」+「にいる者が」の全てがあって【3点】。

※「人里離れた所」、「山中(山里・山田)」、「庵」がない場合は、一つないごとにマイナス。

D【2点】自分の家を恋しく思っている気持ちになぞらえている。

※「自分の家」は「自宅」でもよい。「自分の」の意がない場合はマイナス。

問三 和歌(X)の「かひや」について、筆者はどのように考えているのか。筆者が否定する論も含めて説明せよ。
【10点】

〔該当和歌〕

朝霞かひやが下に鳴くかはす蝦声だに聞かば我が恋ひんやは

〔模範解答〕

A 4(「かひや」を、)魚を飼う「飼屋」とする説や、蚕の「蚕室」のこととする説にはB 1否定

的であり、C 2蚊を避けたり、田を荒らす動物から田を守るためにD 3火を焚く、山中の山田の庵のことであると考
えている。

〔ポイント〕

A【4点】「かひや」を、魚を飼う「飼屋」とする説や、蚕の「蚕室」のこととする説には

※Bが0点の場合は得点できない。

ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。また、Bが1の状態でも0点となっている場合も得点で
きる。

※「かひや」を「の有無は不問。

※「飼屋」とする説」と「蚕室とする説」の二つの意があればよい。片方しかない場合は【2点】。

※「飼屋」の表現がなく「魚を飼うところ」と説明されている場合はマイナス。

※「蚕室」は「蚕(かいこ・かひこ)を飼うところ」でもよい。

B【1点】否定的であり、

※Aが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※A・Bの説を否定していれば、「不自然だ・見るべき点がない」といった表現でもよい。「見苦しい」でもよし
とする。

※1 「蛙(蝦)を飼うはずもない」しかない場合はX。ただし、Aは得点できる。

C【2点】蚊を避けたり、田を荒らす動物から田を守るために

※Dの「火」の役割として「蚊を避ける」と「動物を避ける」の意があればよい。

※「蚊を避ける」は、解答CD内に「蚊火・蚊火屋」の表現があればそれに代わるものとする。

※どちらか一つがない場合は【1点】。

D【3点】火を焚く、山中の山田の庵のことであると考えている。

※場所の説明になっていない場合はX。「庵(小屋)である」がない場合は「所である」等てなくてはならない。

※「火を焚く」+「山中(山里・山田)」+「庵(小屋)である」が全部あって【3点】。これらの要素がない
場合は、一つないごとにマイナス。

ただし、解答CD内に「蚊火」の表現があれば「火を焚く」に、「蚊火屋」の表現があれば「火を焚く」と「庵
(小屋)」に代わるものとする。

※「と考えている」の有無は不問。

三 採点基準 ※60点満点

問一 各2点

- a すなはち
- b ここにおいて
- c いにしへより

※解答通り

※カタカナ書きは不可

※現代仮名遣いは△1点

※「これにおいて」は0点

※送り仮名を含めていないものは不可

問二 8点

A

三丈の木を南門から北門に移しただけで

本当に五十金を与えられたことで、

B

人々は君主の言葉は信用できると思うようになり、

法令にも従うようになったから。

採点のポイント

A 「三丈の木をく五十金を与ふ」に触れていること・・・2点

B 「秦人君の言を以て必ず信なりと為す」の要素・・・4点

C 結果として人民が「法に従うようになった」という要素・・・2点

D 文末の「くから」「くので」の有無は不問とする。

問三 6点

A

三丈の木は、

B

移動させることが難しいわけではない。

C

また、木を移動させること自体に功績があるわけではない。

解答のポイント

A 主語「三丈の木は」が欠けている場合は減点2点

※「約五メートルの木」でもよい。

※文頭でなくてもよい。

B 「徙し難きに非ざるなり」の訳・・・3点

※「移すことは難しくはない」や「移すことは簡単なことだ」などは減点1点

※「移しにくいわけではない」は減点2点

C 「之を徙すに功有るに非ざるなり」の訳・・・3点

※「下りる」は△1点

※「能わず」は△1点

問四 7点

A

天子の言葉は冗談であってはならず、

B

叔虞を晋に封ずると言った以上、

C

実行されなければならないから。

解答のポイント

A 「天子は戯言無し」の要素・・・3点

※ 「天子」は「王」でも可。

※ 「戯言」そのままは減点1点

B 「口にしてしまったからには」の要素・・・2点

C 「実行しなければならぬ」要素・・・2点

※ 「実行したほうがよい」は0点

※文末の「ゝので」「ゝから」の有無は不問とする。

※ 「天子は冗談で桐の葉を与えてはならないから」などは0点

問五 7点

A B

高祖は、四万斤の金について、

C

その使途や出納について一切干渉せず

D E

陳平に委ねた ということ。

解答のポイント

A 傍線部の主体が「高祖」であること・・・1点

※「漢の高祖」「劉邦」でも可。

B 「黄金四万斤を出だして」の要素・・・2点

C 「出入を問わず」の要素・・・2点

※「出入」や「出入り」のままは減点1点。

D 「其の為す所をほしいままにし」の要素・・・2点

E 文末の「〜とうこと」「〜こと」の有無は不問とする。

問六 6点

A

亦た未だ少財を費やさずして

B

能く大利を収むる者有らざるなり。

解答のポイント

※A B各3点の部分配点とする。

※すべてひらがなになっているものは、合っていれば2点とする（つまり減点4点）。

※読み順のミスや脱字があるものは、それぞれ減点3点。

A 「亦↓未↓少↓財↓費↓不↓(而)」の読み・・・3点

※「亦」は「亦た」「また」でも可。

※「少財」の送り仮名が「を」でないものは0点

※「而」のはたらきで「費やさずして」でなくてはならないが「費やさず」としているものは減点2点。

B 「能↓大↓利↓収↓者↓有↓未↓也」の読み・・・3点

※「能」を「能く(よく)」と読めていないものは0点。

※「大利」の送り仮名が「を」でないものは0点。

※「収」を「収める」としているものは減点2点。

※「也」を「や・か」にしているものは0点。

問七 20点

A 秦の孝公が

B

法令を布く前に、君主の言に偽りが無いことを示すために策を講じたり、

C

史佚が成王に

D

天子の言は重く、戯れは許されないと諫めたりしたように、

E

上に立つ者は言葉に信がおけることが必須であり、

F

漢の高祖が陳平に

G

一切干渉せずに黄金四万斤を預けたように

H

大利を収めるには少財を惜しんではならない

I

ということ。

解答のポイント

A 一例目が「秦の孝公」の話であることの明示・・・1点

※「孝公が」でも可。

※「商鞅」の可能性もあるので「商鞅が」でも可とする。

B 本文第一段落の例話のまとめ・・・3点

※「君主の言に偽りが無い」ことを示すためにやったということの要素が欠けている、不足しているものは、減点2点。

C 二例目が「周の成王」と「史佚」の話であることの明示・・・1点

※「成王」は「周の成王」「幼い成王」でも可。

D 本文第二段落の例話のまとめ・・・3点

※「天子の言は重いこと」「冗談は許されない」ことの要素が欠けている場合は、それぞれ減点1点。

E 「古より以来、く能く大功有る者有らず」の要素・・・4点

※ 「言葉に信用がなくて大功を立てた例はなく」など。

F 三例目が「漢の高祖」と「陳平」の話であることの明示・・・1点

※ 「高祖」「劉邦」でも可。

G 本文第三段落の例話のまとめ・・・3点

※ 出入を問わなかったこと、黄金四万斤を与えたこと、不足していればそれぞれ減点1点。

H 「未だ少財を費やさずして能く大利を収むる者有らざるなり」の要素・・・4点

※ 語順のまま「少財を惜しんで大利を収めることはできない」でも可。

I 文末の「ということ」の有無は不問とする。